

病院との連携において 施設側として知りたいこと

～よりスムーズな連携を図るために～

入院時

- ・入院となった理由、診断名
- ・おおよその治療・入院期間の見込み

☆施設側からの情報提供方法

- ・ADL情報や薬事情報を載せたフェイスシートの送付
- ・病棟看護師へ口頭で補足の説明

入院中

- ・入院中の治療経過
- ・ご家族の希望やリハ転院の有無など

退院時

- ・最終的な診断名
- ・ADLの変化（食形態・排泄方法・歩行レベル
認知力の変化など）
- ・服薬内容の変更あり・なし
- ・リハビリの有無
- ・処置の有無
- ・最終排便・最終入浴

病院と介護施設の医療体制の違い

- 医師が常駐ではない
（総合的な医療アセスメントが求められる）
- 施設内で提供できる医療が限られている
（医療機器や材料が限定的）
- 夜間帯に看護師が不在
（オンコール対応）

退院後の生活を見据えた理想的な情報共有

- 退院後の生活のイメージを病院側と共有
- 施設でできることできないことの明確化
- 退院時のADLや治療経過に関する正確な情報共有
- 入院中や退院時の連絡窓口の統一
- 退院日までの準備期間の確保

まとめ

今後ますます医療と介護の連携強化が推進されていくなかで、まずは病院と介護施設が双方の役割や機能、実情をよく理解し、共有することが大切。

医療と介護が連携を深めることで、高齢者が安全かつ安心して暮らせるような社会の実現を目指していきたい。